

## 木版画 7 人展 –twinkle twinkle little things vol.2 – 開催のご案内

このたび、ギャラリーヘプタゴンにて木版画展「twinkle twinkle little things vol.2」を開催いたします。

独自の視点で制作を続ける7人の木版画家による本展では、日々の暮らしに埋もれる小さな喜びや感動を「きらめく小さな星々」として丁寧にすくい上げ、作品に表しています。

2023年の第1回目では川端千絵・久木朋子・田村洋子・本田このみ・ba-ba Woodcut printの5名で開催いたしましたが、今回は新しく馬川亜弓・川村紗耶佳の2名が加わり、さらに豪華な顔ぶれとなりました。同じ木版画でもそれぞれに異なる個性が響き合い、楽しい空間を生みだします。

木版画的な持つ温かな風合いや力強さ、または透明感のある色彩の美しさを存分に堪能して頂き、皆さまの暮らしの中にささやかな安らぎと幸福感をお届けできたらと願っております。

また、木版画的な摺り体験・木版画的なポチ袋作りといった気軽に参加できるワークショップも準備しております。

この機会に是非ともご高覧くださいませ。

---

### 【展覧会詳細】

会期 | 2026年5月16日(土)～5月24日(月)

時間 | 12:00～18:00

休廊日 | 木曜日

オープニングレセプションパーティ | 5月16日(土) 17:00頃～

会場 | Gallery Heptagon (ギャラリー・ヘプタゴン)

〒602-8175 京都市上京区下立売智恵光院西入中村町 523

TEL : 080-7583-3388 info@heptagonworks.com www.heptagonworks.com



### 【摺り体験ワークショップ】

日時 | 5月17日(日) 14時～17時

参加費 | ￥500

予約不要・先着30名

### 【木版画ポチ袋作りワークショップ】

日時 | 5月23日(土) 14時～17時

参加費 | ￥500

予約不要・先着30名

## 参加作家紹介



### 馬川亜弓

2005年・京都精華大学 芸術学部造形学科 版画専攻 卒業 2014年・第2回 国際木版画会議 国際木版画展入選 2026年・伊丹市芸術家協会 <新人賞>受賞\*「花鳥風月」は自然の風景や風流を意味する言葉ですが、花→鳥→風→月と関心が遠いところに移り変わっていくという話を聞いたことがあります。

星という何となく夢のような印象をうけますが、遠くても現実存在するものの光です。私の星への心の距離はまだ近づいたり遠ざかったりしていますが、その小さな光はいつも自分を励ましてくれているように感じ、ひきつけられています。



### 川端千絵

1974年・京都府生まれ

2000年・京都精華大学大学院美術研究科造形専攻版画分野修了 2003年・第55回京展<市長賞>受賞。日本・ブルガリア国際版画展<奨励賞>受賞。2021年・アワガミ国際ミニプリント展<大賞>受賞。現在、京都を中心に作家活動を行いながら、学校や美術講座で木版画および美術の指導にあたる。

\*日々の暮らしの中で、ふと心に引っかかった物や風景、出来事からイメージを膨らませて作品を制作しています。それは単に想像の世界を膨らませるような事では無く、自分の内に深く潜っていく感覚に近いものです。そこから拾い上げるイメージは、私にとってどこか懐かし、安らぎを与えてくれるもので、そして非常に個人的なものです。

しかし、私のそんな個人的な作品が、見知らぬどなたかの心に引っかかる時があり、それがとてもおもしろく、愛おしく感じながら作品を作っています。

日本の伝統木版画の代表的な技法であるぼかし刷りと、現代技法であるニス版に塗布して独特のテクスチャーを刷り取る技法や木版凹版技法を取り混ぜて制作しています。



### ba-ba Woodcut Print

京都精華大学大学院芸術研究科博士前期課程修了

出産後、むすめの寝る間に始めた木版画で ba-ba woodcut print として活動を始める。

1版墨摺のシンプルな技法を使い、植物をモチーフにしてどこまでも広がる模様のような表現を試みている。また、木版画を染めるフィールドで展開するべくブロックプリントの制作も行っている。



### 久木朋子

1970年・和歌山県生まれ

京都教育大学で木材工芸を専攻、2000年より独学で多色摺木版画をはじめ、国内外の山登りで出会った自然から得たイメージを表現する。2011年からは兵庫県の自然に囲まれたアトリエで季節ごとにやってくる鳥たちや移り変わる木々の様子を日々感じながら制作している。全国で個展を開催する他、企業のカレンダーや出版物への作品提供も行っている。



### 田村洋子

1985年・奈良県生まれ

2010年・京都精華大学芸術学部メディア造形学科版画コース卒業

\*自宅の庭で育てた野菜や植物、身近な自然からインスピレーションを受け、そこに日常をコラージュするようにして作品を制作しています。版画特有の作品と自分との距離感が心地よく、また版木と和紙と絵の具の作り出す柔らかな表情にとっても魅力を感じます。



### 川村紗耶佳

2013年・京都精華大学メディア造形学科版画コース卒業

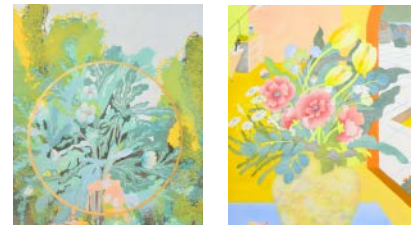
2015年・多摩美術大学大学院美術研究科絵画専攻版画科修了

\*頭の中に残る風景や、心に深く刻まれた誰かの記憶の断片。それらは時空を漂う浮遊体のように、和紙の上にそっと立ち現れます。

私にとっての追憶は、いつしか見る方の心の奥にある「どこか懐かしい場面」へと重なっていくはずです。

和紙の繊維に絵の具を染み込ませ、幾層にも色彩を摺り重ねる。その静かな対話は、曖昧な記憶が確かな手触りを持って形を成していく過程そのものでもあります。

木版の柔らかな木目が、描き出された人物の呼吸と響き合う。和紙と版木が交差する瞬間に生まれる、温かく奥深い「時間の広がり」を感じていただければ幸いです。



### 本田このみ

1987年・兵庫県生まれ

2010年・京都精華大学芸術学部メディア造形学科版画コース卒業

関西を中心に個展やグループ展にて発表を続ける一方で、2012年から2017年まで貼り箱専門店 BOX&NEEDLE に勤務し、独立後も様々なパターンデザイン、イラストなどを手がける。\*作品制作は私にとって時々書き留める日記のようなものです。

小さな出来事を作品にのせて、見ていただいた方の新しい発見になったり、息抜きになったり、共感していただいたり…少し気持ちが豊かになるような、作品を作っていきたいと思っています。

木版画は、柔らかな色彩や「彫り」と「摺り」という作業を経ることによる独特の手作業の味が面白く、「版」という媒体を通して制作するからこそ「思い通りにはいかない、少し自分とは距離のある表現」であることがとても魅力的です。

日々のちょっとした出来事を伝えるには、それくらいの軽さ(距離感)もちょうど良いのかなと思っています。